



2024年12月04日（水曜日）

屋久島世界遺産地域連絡会議第2回幹事会・ヤクシカWG検討の場を開催

令和6年度 屋久島世界遺産地域連絡会議第2回幹事会及びヤクシカWG検討の場が、鹿児島森林管理署会議室において開催されました。

幹事会の主な議題として、(ア)令和6年度の第1回科学委員会の議論の整理について、(イ)令和6年度第2回科学委員会の開催について、(ウ)世界遺産地域モニタリング計画の改定について、(エ)湿原保全対策について、(オ)その他について、環境省九州地方環境事務所進行のもと、各機関から説明があり、今後の進め方等について議論されました。世界遺産地域のモニタリング計画の改定に対しては、科学委員の皆様から寄せられた意見コメントに対して、意見回答をどのように反映しながら進めるか、活発な意見等が出されました。

九州森林管理局からは、令和6年度に実施した湿原保全対策の概要説明がありました。1つ目に、令和5年度に実施した浸食防止対策及び流水分散対策のモニタリング、2つ目に浸食対策の追加、3つ目に地下水位計の増設について概要説明がありました。その他の中で、科学委員会設置要綱の委員年齢について、前回の科学委員会で出された「年齢見直しを」との意見に対して、各出席者から、次回の委嘱手続き内に整理ができるよう意見が交わされました。

ヤクシカWG検討の場では、(ア)「令和6年度第1回ヤクシカWG合同会議における主な助言・意見等に対する今後の取組方向」の確認、(イ)令和6年度九州森林管理局委託事業、(ウ)令和6年度環境省の取組状況、(エ)屋久島世界遺産地域モニタリング項目等（案）、(オ)モニタリング計画改定に関する意見について、関係機関より報告があり、意見交換が行われ、来年2月に開催予定のヤクシカWGへの報告内容等が整理されました。



湿原対策について説明(奥村所長) (左)、検討の場で挨拶(九州森林管理局 松永保全課長) (右)

2025 年 01 月 16 日（木曜日）弥生杉倒伏に伴う周辺環境整備状況

白谷雲水峡にある弥生杉が倒伏したことから、有識者及び関係機関等を構成員とした「弥生杉の取扱いに係る検討会」を設置し、今後の取扱いについて確認しました。検討会の方針としては、次の世代に繋げる森林環境教育の場や観光資源として活用するため、基本的にそのままの状態で見守りすることとなりました。（12 月 9 日 当保全センターHP 検討結果のお知らせ）

取扱い方針が確認・公表されたことから、周辺の環境整備等について着手しましたので、その現況についてお知らせします。

方針を踏まえ、弥生杉周辺の折損木等を含めた枝条整理の実施、倒伏した弥生杉本体周辺へのシカ侵入防護柵設置、遊歩道の再整備、看板等の設置を実施しています。周辺の枝条整理等を実施したことから歩道からも倒伏した弥生杉の状況を観察することも出来ます。

また、既設歩道の一角に弥生杉先端部が落下し破損したため、環境省等からの歩道整備情報を基に「近自然工法」を取り入れ、工法に詳しい屋久島のガイドの方を中心に整備に取り組むなど、請負者（ガイド等含む）及び屋久島レクリエーションの森保護管理協議会、屋久島森林管理署、当保全センターなど連携・協力し周辺環境整備を順次進めている状況です。その結果、12 月末に一部が完了しました。1 月上旬の寒波により県道通行止めの影響で遅れ気味ではありますが、2 月上旬迄には枯損木の処理や看板等の設置を行う予定としています。

倒伏前までは、弥生杉の根元近くまで行き観察が出来ましたが、既設歩道の真上に倒伏し観察困難となったため、年度末に向け、木製デッキを防護柵付近に設置するとともに、既設歩道から連結させる歩道を検討しています。

弥生杉ルート of 早期規制解除に向け、関係機関等と情報を共有し取り組んでいるところです。一般観光客の方へは、今暫くの間、お待ちいただきますようお願いいたします。

なお、解除予定日が決定次第、当保全センターHP においてお知らせします。



迂回歩道からの風景(防護柵越し)（左）、既設歩道からの風景(折損部望む)（中）、
新設歩道迂回路(近自然工法)（右）